

第16回SGH特別賞授賞式

近畿大学医学部消化器内科学主任教授
工藤 正俊氏

肝細胞がん治療のために

肝細胞がんは、近年の肝臓癌の中で最も増えている病気です。肝臓は静脈と門脈を流す血液をろ過する臓器であり、がんが転移しやすいため、発見が遅くなると予後が悪くなる傾向があります。工藤氏は、肝臓がんの早期発見と治療法の開発に努めています。特に新規診断法・新規治療法の開発研究が、肝臓がんの診断と治療に大きく貢献しています。

トランスレシナル・リザーブは、基礎で発見し、最新の検査法で確認できるものです。最新の臨床的効果も、現在はまだ確認できていません。トランスレシナル・リザーブは、肝臓がんの早期発見に大きく貢献しています。最新の臨床的効果も、現在はまだ確認できていません。トランスレシナル・リザーブは、肝臓がんの早期発見に大きく貢献しています。

効率的な臨床展開が使命



近畿大学医学部消化器内科学工藤正俊主任教授が肝臓の新規診断法の開発ならびに新規治療法、新規薬剤の開発における多大なる研究功績が称えられ、SGH財団からSGHがん特別賞を授与され表彰されました。

受賞式の模様は1月19日の読売新聞の朝刊に掲載されました。